今月の谷口雅春先生のお言葉

わずかな時間にこそ無限の価値がある

「いのち」を大切にせよ

たいていの人は、時間というものをぼんやりと過してしまう人が多いのであります。ところが、「時間」ぐらい大事なものは世の中にないのであって、何物をもって較べてみましても、時間以上に尊いものはこの世にないのであります。というのは、第一私達の寿命というものが時間によって成立っている。人は生命から二番目は金である、とこう申しますけれども、その生命そのものはもう一番目である。その生命が何によって成立っているかというと、時間の継続によって成立っているのでありますから、この時間を十分でも無駄に費したら、その十分だけ自分の寿命が縮まった事になるわけであります。しかも、それに気のつく人が実際少ないのは残念であります。それに気のついた人は必ず何かできる人になっている。必ず何か世の中で頭になっておられるとか、或いは何か事業に成功するとかしているのであります。「時間」さえ生かして使えば私達はこの世の中に於てなんでもできないというものはないのです。

（光明思想社版『人生読本』206～207頁）

金貨よりも時間は大切

ところが、この時間ぐらい目に見えないものはない。目に見えないためにどうも粗末にされ易く、失われ易いのであります。金はなくしたら人から借りる事もできますが、時間をなくしたら人から借りる事はできません。仮りに金貨を握ってそれを捨てて歩いたら、「ああもったいない」と言って拾って歩く人はありますけれども、時間を捨てて歩く人の後からついて往って、「ああもったいない」と言って時間を拾って歩く人はないのであります。時間は目に見えないから拾って歩くわけにはゆかないし、時計で測って見て、眼に見えたからといって、時計の捻子を逆に廻して、針を逆さまに廻してみても、時間そのものは後へ戻って来るものでもなく、「あんた時間を落していますよ」と言って拾って上げるわけにもゆかないのであります。このように時間というものは生命から二番目の金よりも大切で、一番の一番の生命そのものでして、時間を失ってしまったらどうにも仕方がないのでありますから、皆さんどうぞ一分間でも時間を生かして、良い事に、勉強に、仕事に、人に喜ばれることに、自分をよくする事に、人をよくすることに、人のためになることに、使うことにいたしましょう。

（光明思想社版『人生読本』207～208頁）

無限の値打の生み出し方

私達が、もし自分のすべての時間を本当に生かすという事ができますれば、私達は恐らく、今生きている何倍、否、何十倍も生きられることになるでしょう。単に時間的に考えると、一日に四時間雑談に使うところを、その四時間だけ何か勉強すれば、ただそれだけでも、一つの事柄の大学者になることができるのであります。人が出世できないのは時間の利用法を知らないから

です。その上、四時間を勉強すればその四時間だけ助かると思いますけれども、それはそんな小さな問題ではないのであります。その四時間の時の流れの時々刻々を本当に生きてゆく事にしましたならば、その四時間の中の時々刻々、一分一秒一瞬が又おのおの無限の価値をもってくるのであります。そうなりますと、私達の時間の生かし方によっては、計算のできない無限の価値がそこから生れてくるのであります。

（光明思想社版『人生読本』210～211頁）

時々刻々千載一遇

一日のお料理をいたしますにも、今、この時間にお料理をする事その事が千載一遇の機会であります。別の時は別の機会であって、「今」は「今」しかないのであります。私達は常に時々刻々が千載一遇の好機会であるという事を知らなければならないのであります。或いは難かしいお姑さんのところにお嫁に行ったという事がありましても、こんな尊い経験は又とないのでありますから、それは実に千載一遇の機会であると喜ばなければならないのであります。そういう口喧しい姑さんの家に嫁に行って生活するという経験は、他の処へ嫁に行っては味わうことのできない又とない尊い経験なのであります。これが千載一遇の機会で、その機会を失ったら、又同じ機会は来ないのであります。又厳しい工場監督さんの下に雇われて働くにしましても、厳しい先生に叱られつつ何か勉強するにしましても、厳しい監督さんや厳しい先生に逢わしていただくのも、それでなければ得られないところの千載一遇の機会を恵まれて、神様が私にここにこういう経験をさせてくださるのだと思えば、その難かしい監督さん、その難かしい先生をありがたく拝みたくなるのが当り前であります。

（光明思想社版『人生読本』217～218頁）